様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２１年　３月　１日現在

研究種目：基盤研究（Ｃ）
研究期間：2006-2008
課題番号：18520622
研究課題名（和文）　「文字文化」は庶民の生活をどのように変えてきたか

研究課題名（英文）How did “the letter culture” change the life of the common people?

研究代表者
宮内　貴久（MIYAUCHI TAKAHISA）
お茶の水女子大学・大学院人間文化創成科学研究科・准教授
研究者番号：10327231

研究成果の概要：
奥会津地方で伝授されてきた番匠巻物は三輪神道の系統であること、職人巻物はかつて全国的に存在していたことが明らかになった。書写する過程で内容の削除と加筆という編集が行われていること、加筆された部分はその時代社会が必要とした知識であることが明らかになった。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2006 年度	1,100,000	0	1,100,000
2007 年度	800,000	240,000	1,040,000
2008 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
総　計	2,900,000	540,000	3,440,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：文化人類学・民俗学
キーワード：職人、建築儀礼、由緒、文字文化、読書、リテラシー

１．研究開始当初の背景
　従来の民俗学は、民俗文化をその地で育まれた文化であるという見方をしてきた。しかし、書籍など文字文化が民俗に影響を与えてきたのは明らかであるが、そうした視座の研究は行われてこなかった。

２．研究の目的
　寺子屋教育の普及、近代教育により庶民の間でリテラシーが向上していったが、文字文化の普及は生活文化の中でどのような影響を与えてきたのかを解明することを目的とする。

３．研究の方法
　福島県南会津郡只見町を主要なフィールドにして民俗調査をする。また、全国各地の文書館などでの史料調査を行うことにより、生活文化の中に書籍や巻物などどのような文字文化が入ってきたのか検証する。

４．研究成果
　宮内貴久は奥会津地方で伝授されてきた番匠巻物は三輪神道の系統であることを明らかにした。書写する過程で内容の削除と加筆という編集が行われていることを明らかにした。さらに、職人巻物はかつて全国的に存在していたこと、日本建築史における木割書・儀礼諸研究の一領域として開拓できるという展望を開いた。
　大口勇次郎は相模国高座郡柳島村（現・

神奈川県茅ヶ崎市）の名主藤間善兵衛が、黒船が来航した嘉永 6 年（1853）から幕府が滅亡する明治初年までの間における、諸事件、即ち黒船来航に始まる外交問題、天狗党事件や御札降りなどの社会騒乱、安政の大地震や大雨の被害などの天災、桜田門事件から幕府の崩壊にいたる政治的諸事件、等々に関する記事を集め、これを編年に整理し、全七冊にまとめた「太平年表録」という書物を取り上げて、そこに収録された文献資料の出典、性格等を明らかにすることによって、ひろく幕末維新期における農村社会の「文字文化」のあり方を明らかにした。

神田由築は昭和 30 年代頃まで三十余の農村舞台があって、島民たちによる歌舞伎が盛んに行われていた小豆島をフィールドにして、中山歌舞伎に残る根本（歌舞伎台本）をもとに、島に伝えられた「伝承」＝「物語」が芝居の根本という「文字文化」に結実する様相を明らかにした。

小豆島で歌舞伎の指導にあたった振付師のなかには、嵐璃当や市川島十郎のように根本を多く残した者がいる。彼らこそ、芝居の根本というかたちで、「物語」を「文字文化」に結実させた存在であった。そして同時に、芝居を上演することで、「文字文化」を身体的表現をともなった「芸能」に昇華させたことを明らかにした。

小池淳一は福島県只見町の代表的な講である山の神講と飯豊講とを取り上げ、その変遷を聞き書きによる復元とともに只見地区新町組に残された「山神講人別帳」「飯豊講人別（覚）帳」の分析を通して明らかにした。さらにそうした作業のなかで近代期の講の記録の性質と特徴について考え、この種の文書を取り扱う視点を考察した。文書は家の文書でも村の文書でもなく、一定の期間の講の活動のなかで形成され、利用、記入される一種の民具としてとらえることが可能である。そしてそうした性質を意識して、民俗的なコンテクストを意識しながら記載内容を吟味する必要がある。このことは、記載に用いる道具の問題や記載することとしないこととの判別―何が書かれたか、ではなく、何が書かれなかったか、を意識することにもつながることを明らかにした。

渡部圭一は頭役祭祀に関する史料の一つとして近江湖南の一村落、滋賀県野洲市大篠原の大笹原神社で毎年行われている天王神事における祭祀文書の伝存例をとりあげ、その様式的な特徴について検討した。この文書は永正 4 年（1507）以来現在までの史料が伝存しており、一部は現用中である。

文書の分析から、文書から記録へ、本紙から綴りへという一つの法則が見出せられた。宮座組織における帳簿管理の前景化、あるいは帳面依存の強まりがみられた。形態的には、当初には謹直な差定書である本紙とその事後的な写しという関係が明らかで、綴りの側のイレギュラな用紙遣い、記帳の時間差、文書様式上の不備や二次的な写しとしての性格もこれと一環の傾向である。かくして文書の機能する場の問題、すなわち差定書発給が神事の場でいかなる効果をもっていたのか、また頭人の差定において事後的に帳面を管理・参照することの比重の拡大とは実質的にどのような意味をもつできごとであるのか、焦点的な問題としての史料の存在が浮かび上がってきた。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 24 件）

① 宮内貴久「奥会津地方の番匠巻物-系譜・由来・呪い歌-」笹原亮二編『口頭伝承と文字文化―　字の民俗学、声の歴史学―』（思文閣出版、2009 年 2 月、122～148 頁）
② 宮内貴久「日本番匠記系本の展開」『歴史と民俗』24 巻（神奈川大学日本常民文化研究所、2008 年、91～113 頁）
③ 大口勇次郎「経済システムとしての江戸城」『東京都江戸東京博物館研究報告』14 号（江戸東京博物館、2008 年）
④ 大口勇次郎「最後の歩兵奉行　戸田肥後守」『研究紀要』11 号（日本村落自治史料調査研究所、2007 年）
⑤ 神田由築「役者村」塚田孝編『身分的周縁と近世社会 4　都市の周縁に生きる』（吉川弘文館、2006 年、121～153 頁）
⑥ 神田由築「大坂の芸能と都市民衆―素人浄瑠璃を中心に―」『都市に対する歴史的アプローチと社会的結合』（大阪市立大学大学院文学研究科都市文化研究センター、2007 年、71～84 頁）
⑦ 小池淳一「南島民俗文化における書物の印象と伝承-先島と奄美-」『書物・出版と社会変容』第 6 号（書物・出版と社会変容研究会、2009 年 3 月、109～121 頁）
⑧ 小池淳一「〈声〉からみた文字―日本列島における歴史と民俗の領域から―」笹原亮二編『口頭伝承と文字文化―文字の民俗学、声の歴史学―』（思文閣出版、2009 年 2 月、15～38 頁）
⑨ 小池淳一「狐狸の書・神々の帳面―書記行為の民俗をめぐって―」笹原亮二編『口頭伝承と文字文化―　字の民俗学、声の歴史学―』（思文閣出版、2009 年 2 月、104～121 頁）
⑩ 小池淳一「民俗知とは何か―　宗教者概念の再検討―」澤博勝・髙埜利彦編『近世の宗教と社会３　民衆の＜知＞と宗教』（吉川弘文館、2008 年、34～63 頁）
⑪ 小池淳一「本川神楽の呪法と系譜」『国立歴史民俗博物館研究報告』第 142 号（2008 年、337～353 頁）
⑫ 小池淳一「近世陰陽道系知識の位相―1 枚物大雑書の意義―」『宗教研究』81 巻 4 号、日本宗教学会、　2008 年 3 月、436～437 頁
⑬ 小池淳一「岩木川流域の伝承と生活」青森県環境生活部県民生活文化課県史編さんグループ編『岩木川　流域の民俗』、青森県、2008 年 3 月、1～6 頁
⑭ 小池淳一「「話」という方法―小井川潤次郎と仲間たち―」『口承文芸研究』30 号（日本口承文芸学会、2007 年、142～149 頁）
⑮ 小池淳一「唱導文化論の構想」『国文学-解釈と鑑賞-』72 巻 10 号（至文堂、2007 年、19～27 頁）
⑯ 小池淳一「民俗信仰の領域」『日本民俗学』247 号（日本民俗学会、2006 年、101～124 頁）
⑰ 渡部圭一「書評　井上智勝著『近世の神社と朝廷権威』」『史境』第 57 号、歴史人類学会、2008　年 9 月、116～123 頁
⑱ 渡部圭一「神事と禁忌の高度経済成長―近江における宮座の戦後史分析―」『生活学論叢』13 号（日本生活学会、2008 年、29～43 頁）
⑲ 渡部圭一「相給村の神事と由緒―近世入間郡 3 ヶ島村中氷川神社の流鏑馬神事―」『埼玉民俗』第 33 号（埼玉民俗の会、2008 年、50～73 頁）
⑳ 渡部圭一「経本と読経の伝承論―「御文章」読誦をめぐるモノ・表記・声―」『民具研究』第 136 号（日本民具学会、2007 年、20～32 頁）

㉑ 渡部圭一「過去帳焼亡譚の伝承史—狭山丘陵北麓古村のイッケを例に—」『埼玉民俗』第32号（埼玉民俗の会、2007年、19～36頁）

㉒ 渡部圭一「式内社・論社問題における書物と「口碑」」『書物・出版と社会変容』第2号（「書物・出版と社会変容」研究会、2007年、61～81頁）

㉓ 渡部圭一「式内社伝承の形成と地域神職—伝承史における文字の才覚—」『日本民俗学』第246号（日本民俗学会、2006年、31～68頁）

㉔ 渡部圭一「イッケ伝承史のなかの墓標と過去帳—文字をめぐる想像と実践—」『文化人類学研究』第7巻（早稲田大学文化人類学会、2006年、171～186頁）

〔学会発表〕（計１１件）

① 小池淳一「講の変遷」（第60回日本民俗学会年会、熊本大学、2008年10月5日）
② 渡部圭一「書付・記帳と村落の領域」（第60回日本民俗学会年会、熊本大学、2008年10月5日）
③ 渡部圭一「宮座の秩序と記帳慣行—滋賀県野洲市大篠原の頭人差定神事を例に—」（第59回日本民俗学会年会、大谷大学、2007年10月7日）
④ 渡部圭一「土地・類型・伝承—学史研究になにができるか—」（現代民俗学会第2回研究会、筑波大学大塚キャンパス、2008年2月23日）
⑤ 渡部圭一「先祖の民俗史料学」（日本民俗学会第60回年会プレシンポジウム、成城大学、2008年7月13日）
⑥ 渡部圭一「宮座“集団”再考—近江における祭祀頭役制の一例をもとに—」（日本村落研究学会第56回大会、佐渡島開発総合センター、2008年11月1日）
⑦ 渡部圭一「延喜式神名帳の地域化と論社問題—武蔵国式内社を中心に—」（群馬歴史民俗研究会第84回研究例会、前橋市中央公民館、2008年12月21日）
⑧ 渡部圭一「頭役祭祀の差定書と頭人帳—宮座における頭人の選定基準とその変化—」（地方史研究協議会2008年度第5回研究例会、駒澤大学会館、2009年3月26日）
⑨ 渡部圭一「同姓集団」再考—イッケの系譜認識における書承像を手がかりに—」（早稲田大学文化人類学系院生懇話会第17回研究発表会、早稲田大学文学部キャンパス、2007年5月19日）
⑩ 渡部圭一「式内社・論社問題における書物知識—埼玉県所沢市中氷川神社を事例として—」（第23回「書物・出版と社会変容」研究会、一橋大学佐野書院、2006年4月8日）
⑪ 渡部圭一「真宗儀礼における御文章と正信偈—文字と音声の距離について—」（日本民俗学会第58回年会、山形大学、2006年10月15日）

〔図書〕（計６件）

① 宮内貴久『家相の民俗学』（吉川弘文館、2006年、308頁）
② 大口勇次郎『新横須賀市史　資料編　近世Ⅰ』共編、解説（横須賀市、2007年）
③ 大口勇次郎『藤間柳庵「太平年表録」』（茅ヶ崎市史料集第5集）校訂・解説（茅ヶ崎市、2007年、256頁）
④ 小池淳一『伝承歳時記』（飯塚書店、2006年、239頁）
⑤ 安田次郎『走る悪党、蜂起する土民』（小学館、2008年、366頁）
⑥ 安田次郎『福智院家文書　第二』（校訂）

（続群書類従完成会、2006 年、249 頁）

６．研究組織
(1)研究代表者
宮内 貴久（MIYAUCHI TAKAHISA）
お茶の水女子大学
大学院人間文化創成科学研究科・准教授
研究者番号: 10327231

(2)研究分担者
大口 勇次郎（OGUCHI YUJIRO）
お茶の水女子大学・名誉教授
研究者番号：00017112

安田 次郎（YASUDA TSUGUO）
お茶の水女子大学
大学院人間文化創成科学研究科・教授
研究者番号：60126191

神田 由築（KANDA YUTSUKI）
お茶の水女子大学
大学院人間文化創成科学研究科・准教授
研究者番号：60320925

佐野 賢治（SANO KENJI）
神奈川大学・経済学部・教授
研究者番号：90131127

小池 淳一（KOIKE JUNICHI）
国立歴史民俗博物館・民俗研究部・准教授
研究者番号：60241452

渡辺 圭一　（WATANABE KEIICHI）
早稲田大学・人間科学学術院・助手
研究者番号：80454081

(3)連携研究者
なし